

## 安全データシート

改訂日：2020年4月30日

## 1. 製品及び会社情報

製品名  
会社名  
住所  
電話番号

酢酸オルセイン溶液  
米山薬品工業株式会社  
大阪市中央区道修町2丁目3番11号  
(06)6231-3555 (大阪・本社)  
(03)3246-2311 (東京) (0268)22-5910 (上田)  
(052)504-2221 (名古屋) (082)537-0290 (広島)  
CA3020

整理番号

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性

急性毒性（経皮）：区分5  
皮膚腐食性・刺激性：区分1A-1C  
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：区分1  
特定標的臓器・全身毒性：区分1（血液、呼吸器系）  
（単回ばく露）  
水生環境急性有害性：区分3

環境に対する有害性

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険  
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷  
重篤な眼の損傷  
皮膚に接触すると有害のおそれ（経皮）  
血液、呼吸器系の障害  
水生生物に有害

注意書き

【安全対策】  
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
取り扱い後はよく手を洗うこと。  
換気が十分でない場合には、適切な呼吸用保護具を着用すること。  
環境への放出を避けること。  
【応急措置】  
皮膚または髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。  
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。  
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。医師に連絡すること。  
皮膚に付着した場合、眼に入った場合、飲み込んだ場合、吸入した場合は、直ちに医師に連絡すること。  
ばく露した時、または気分が悪い時は、医師に連絡すること。  
【保管】  
換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。  
施錠して保管すること。  
【廃棄】  
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

## 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別

化学名

成分

含有量

化学式又は構造式

化学物質を特定できる一般的な番号(CAS RN)

官報公示整理番号(化審法・安衛法)

酢酸、オルセイン、水の混合物

酢酸オルセイン溶液

酢酸	オルセイン	水
約48%	約1%	残り
CH <sub>3</sub> COOH	-----	H <sub>2</sub> O
64-19-7	1400-62-0	7732-18-5
(2)-688	-----	-----

## 4. 応急措置

眼に入った場合

速やかに清浄な水で最低15分間の洗浄を行うこと。  
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。洗浄を続けること。

直ちに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合

汚れた衣類や靴等を脱ぎ、製品に触れた部分を水で洗い流した後、石鹼を用いて十分に洗浄する。

吸入した場合

気分が悪い時は医師を呼ぶこと。

新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

飲み込んだ場合

医師の診断を受ける。

水で口の中をよく洗浄する。コップ1～2杯の水を与えて胃内を薄める。意識がない場合は、何も与えてはいけない。吐かせないこと。刺激性液体であるので吐き出させると危険性が増す。

速やかに医師の手当てを受ける。

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤

噴霧水、二酸化炭素、粉末、耐アルコール泡。

使ってはならない消火剤

棒状注水

特有の危険有害性

火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

風下での作業を避ける。

周辺の設定備等に散水して冷却する。

消火を行う者の保護

消火作業の際には必ず空気呼吸器その他の保護具を着用する。

## 6. 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

環境に対する注意事項

漏洩場所への立ち入りを禁止し、付近の着火源となるものを取り除く。作業の際には、保護具着用のこと。

回収、中和

河川等へ排出され環境への影響を起ささないように注意する。

少量の場合は乾燥砂、おがくず、ウエス等に吸収させ回収する。

大量の流出は、土砂等で流出防止を図り回収する。

中和作業は、ソーダ灰、石灰水溶液で徐々に中和する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

保護具を着用する。

技術的対策

液の漏洩、蒸気の発散を防止する。

加熱により引火性の蒸気を発生するので、着火源、高温物などを近付けない。

局所排気・全体換気

局所排気装置を設置する。

安全取扱い注意事項

容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。

火気、静電気、衝撃火花等の着火源との接触禁止。

蒸気の吸入を避ける。

眼、皮膚、衣服との接触を避ける。

取扱後完全に洗浄する。

酸化剤、塩基、高温物、火気などとの接触を避ける。

接触回避

保管

保管場所には換気設備を設ける。

技術的対策

酸性物質、塩基

混色危険物質

密封して、冷乾燥場所に保管する。

保管条件

酸性物質、着火源、高温物などから離して保管する。

容器包装材料

ガラス

## 8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度等

未設定

管理濃度

10 ppm, 25mg/m<sup>3</sup> (酢酸)

日本産業衛生学会

TLV-TWA 10 ppm, 25mg/m<sup>3</sup> (酢酸)

ACGIH

取扱いについては、局所排気装置を使用する。発生源の密閉化。

設備対策

保護具

呼吸器の保護具

有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器

手の保護具

ゴム手袋

目の保護具

ゴーグル

皮膚及び身体の保護具

作業衣

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態

液体

色

暗赤紫色

臭い

酢酸臭

融点・凝固点

データなし

沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界

データなし

引火点

データなし

自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
pH	強酸性
溶解度	水と混和
n-オクタノール／水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
比重	1.06 (20/4 °C)
相対ガス密度(空気=1)	データなし
<b>10. 安定性及び反応性</b>	
安定性	通常の取り扱いにおいては安定。
危険有害反応可能性	酸化剤、塩基と激しく反応する。
避けるべき条件	日光、熱
混触危険物質	酸化性物質、塩基
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物
<b>11. 有害性情報(酢酸としての情報)</b>	
急性毒性	経口：〔酢酸として〕ラット LD50=3310 mg/kg (PATTY (5th, 2001)) 経皮：〔酢酸として〕ウサギ LD50=1060 mg/kg (PATTY (5th, 2001)) 本製品は、加算式(=100*1060mg/kg/濃度)により分類した。
皮膚腐食性・刺激性	吸入：〔酢酸として〕ラット LCLo=16000 ppm (PATTY (5th, 2001)) 〔酢酸として〕動物実験で50%以上の濃度の酢酸の投与で皮膚の壊死およびやけどがみられる(PATTY (5th, 2001)、腐食がみられる(IUCLID (2004))の記載がある。 本製品は、皮膚区分1の成分合計が48%であり、濃度限界5%以上のため、区分1とした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	〔酢酸として〕ウサギにおいて液体水酢酸は眼に破壊的な損傷を起こし(PATTY (5th, 2001))、16%の酢酸は恒久的な角膜損傷を起こした(IUCLID (2004))こと、人での事故で角膜の麻痺や混濁は永久に残った(PATTY (5th, 2001))などの記載がある。 本製品は、眼区分1の成分合計が48%であり、濃度限界3%以上のため、区分1とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	〔酢酸として〕(呼吸器感作性)酢酸による惹起に陽性反応を示した気管支喘息の患者や、アルコールまたは酢酸にばく露されI型過敏性反応類似の反応を呈したヒトが報告されている(PATTY (5th, 2001))。またエタノールにアナフィラキシー反応と酢酸に即時型アレルギーを示したとの報告もある(HSDB (2005))。しかし、以上の報告は極めて稀な症例であり、またその他にヒトに対しての報告や動物による試験報告などはなくデータ不足のため分類できない。なお、当該物質と喘息発作の関連性は否定できないため、取り扱いには十分な注意を要する。
生殖細胞変異原性	〔酢酸として〕in vitro 変異原性試験での陰性の結果以外にデータがない。
発がん性	データなし。
生殖毒性	データなし。
特定標的臓器・全身毒性-単回暴露	〔酢酸として〕ヒトで水酢酸または大量の酢酸を摂取後、播種性血管内凝固障害、重度の溶血、虚血性腎不全を起こした症例報告が複数あり(PATTY (5th, 2001)、ACGIH (2004))、区分1(血液)とした。また、ヒトで吸入暴露による鼻、上気道、肺に対する刺激性の記載(PATTY (5th, 2001))、「ヒトが蒸気を吸入すると気道腐食性、肺水腫が見られることがある」との記述(ICSC (J) (1997))があり、実際に石油化学工場での事故によるばく露で気道閉塞と間質性肺炎を発症した報告(ACGIH (2004))があるので区分1(呼吸器系) 本製品は、区分1の合計が10%以上のため、区分1(呼吸器系、血液)とした。
特定標的臓器・全身毒性-反復暴露	〔酢酸として〕反復ばく露後の影響について動物の情報は乏しく、ヒトにおける報告例がある(反復ばく露)が、症状として軽度であ
誤えん有害性	データなし。
<b>12. 環境影響情報(酢酸としての情報)</b>	
生態毒性	短期(急性): 甲殻類(オオミジンコ) 24時間EC50=47mg/L (IUCLID, 2000) 本製品は、加算法(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3が48%であり、濃度限界(25%)異常のため、区分3とした。 長期(慢性): 急速分解性があり(BODによる分解度:74%(既存点検, 1993))、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=-0.17 (PHYSPROP Database, 2009))ことから、区分外とした。
残留性・分解性	生態毒性 長期(慢性)参照。
生態蓄積性	生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=-0.17 (PHYSPROP Database, 2005))
土壌中の移動性	データなし。
オゾン層に対する有害性	データなし。

## 13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

## 国連番号

2790

品名(国連輸送名)

酢酸(水溶液)(濃度が10質量%を超え50質量%未満のもの)

国連分類

クラス8(腐食性物質)

容器等級

III

海洋汚染物質

該当(酢酸)

## 特別安全対策

運搬に際しては直射日光を避け、容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実にを行う。

## 国内規制がある場合の規制情報

陸上輸送

消防法の規定に従う。

海上輸送

船舶安全法の規定に従う。

航空輸送

航空法の規定に従う。

## 応急措置指針番号

153

## 15. 適用法令

化学物質管理促進法(PRTR法)

指定化学物質に該当しない。

毒物及び劇物取締法

毒物及び劇物に該当しない。

消防法

危険物に該当しない。

労働安全衛生法

名称等を表示又は通知すべき危険物及び有害物(酢酸)

海洋汚染防止法

施行令別表第1有害液体物質(Z類)

船舶安全法(危規則)

腐食性物質(酢酸:濃度が10質量%を超え50質量%未満のもの)

## 16. その他の情報

## 引用文献

化学品安全管理データブック(化学工業日報社)

安全情報センターHP

NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP)

記載内容のうち、含有量、物理/化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。